

IR分析報告書

世田谷プラットフォーム IR部会

目次

1. 世田谷PF協定大学の学生数（学部生）
2. 世田谷PF協定大学の学生数（大学院生）
3. 世田谷PF協定大学の一般選抜の動向
4. 世田谷PF協定大学の共通テスト/センター試験利用選抜の動向
5. 世田谷区将来人口に係る統計①
6. 世田谷区将来人口に係る統計②
7. 大学選びに関するアンケート集計結果①
8. 大学選びに関するアンケート集計結果②
9. 大学選びに関するアンケート集計結果③
10. 大学選びに関するアンケート集計結果④

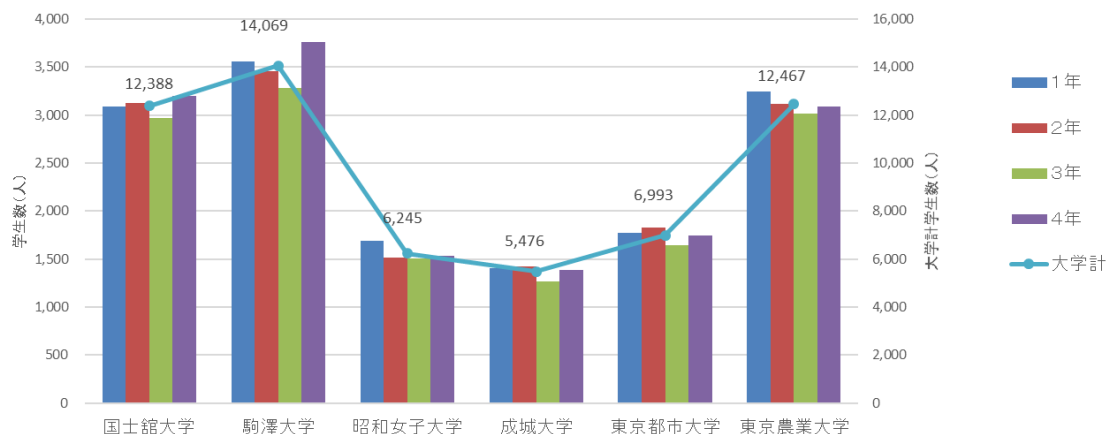
※ 本報告書では、「大学入学共通テスト」を「共通テスト」、「大学入試センター試験」を「センター試験」と略して記載しています。



2023年3月29日

世田谷プラットフォーム協定大学の学生数（学部生）

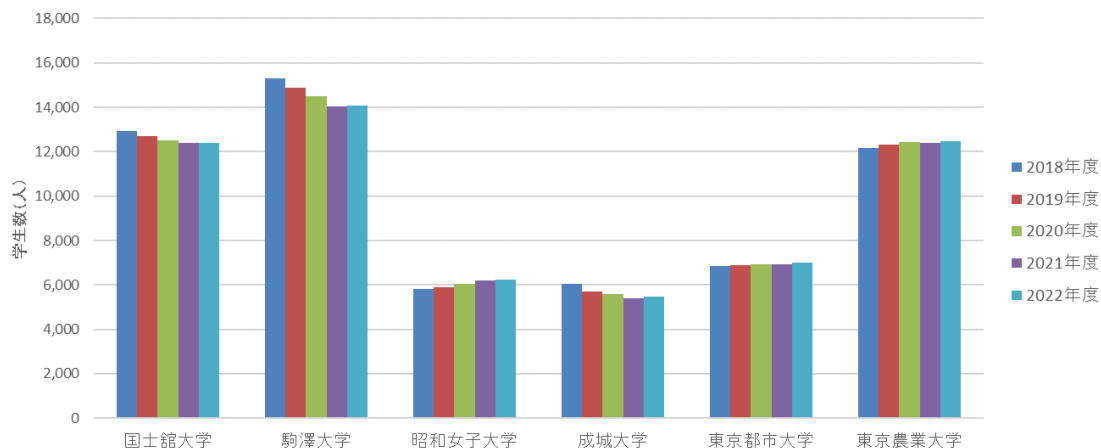
学生数(学部) 2022年5月1日現在



	1年	2年	3年	4年	大学計
国士舘大学	3,089	3,126	2,972	3,201	12,388
駒澤大学	3,561	3,461	3,283	3,764	14,069
昭和女子大学	1,688	1,518	1,508	1,531	6,245
成城大学	1,403	1,419	1,268	1,386	5,476
東京都市大学	1,777	1,827	1,648	1,741	6,993
東京農業大学	3,244	3,117	3,014	3,092	12,467
6大学計	14,762	14,468	13,693	14,715	57,638

※学生数は、
世田谷区外のキャンパスも含めている

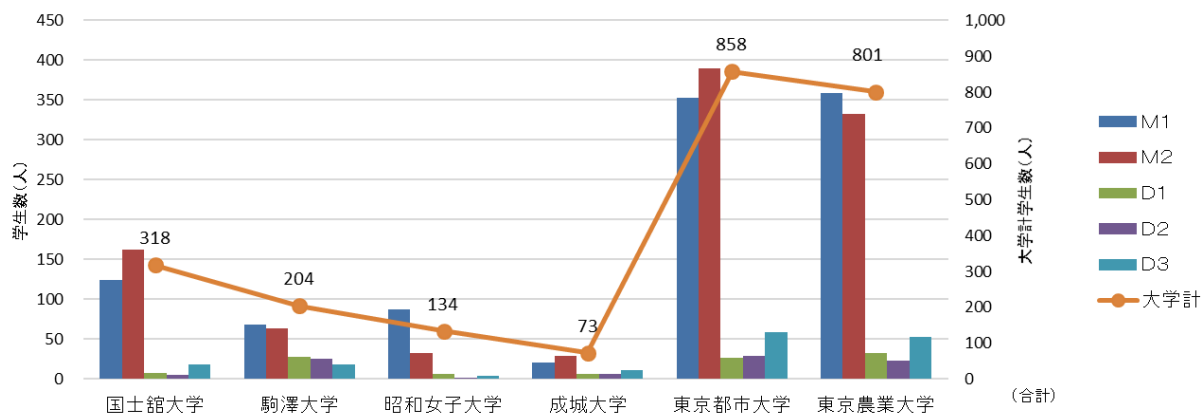
学生数(学部生)の経年推移



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
国士舘大学	12,920	12,700	12,501	12,386	12,388
駒澤大学	15,288	14,882	14,480	14,036	14,069
昭和女子大学	5,821	5,895	6,052	6,190	6,245
成城大学	6,055	5,698	5,581	5,406	5,476
東京都市大学	6,856	6,886	6,932	6,928	6,993
東京農業大学	12,181	12,329	12,419	12,394	12,467
6大学計	59,121	58,390	57,965	57,340	57,638

※学生数は、各年度5月1日現在

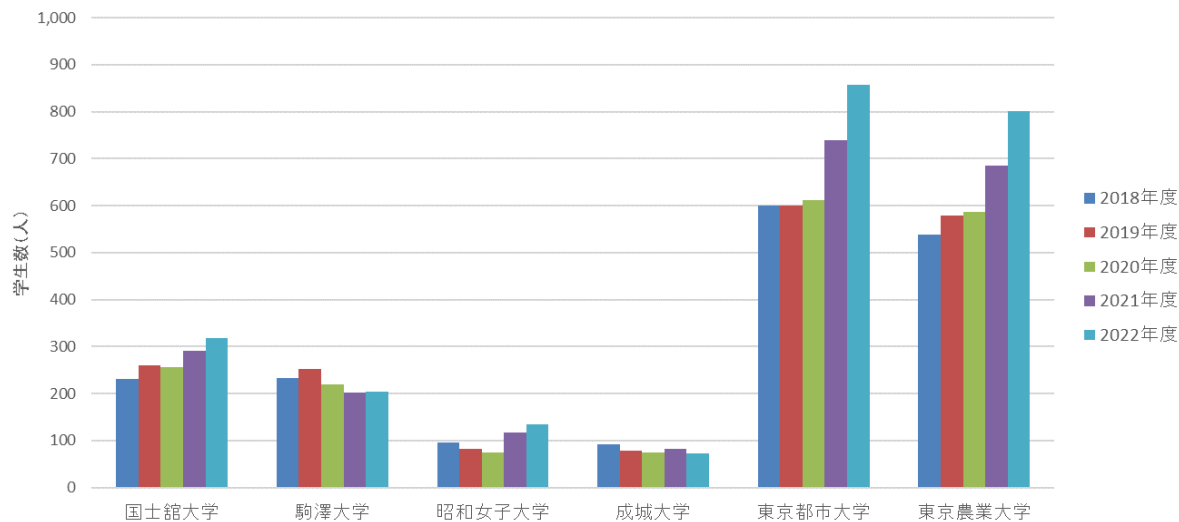
学生数(大学院 修士課程・博士前期課程、博士後期課程)2022年5月1日現在



	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	大学計
国士舘大学	124	163	8	5	18	318
駒澤大学	69	64	28	25	18	204
昭和女子大学	88	33	7	2	4	134
成城大学	21	29	6	6	11	73
東京都市大学	353	390	27	29	59	858
東京農業大学	359	333	33	23	53	801
6大学計	1,014	1,012	109	90	163	2,388

※学生数は、
世田谷区外のキャンパスも含めている

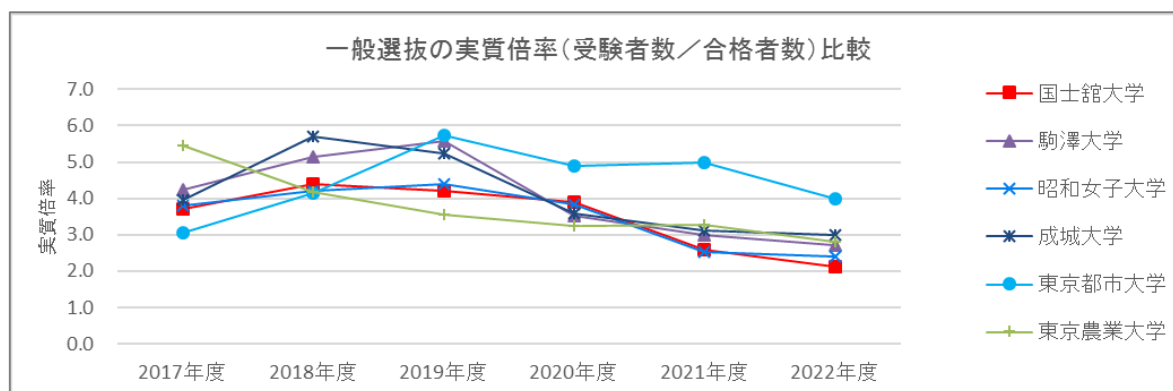
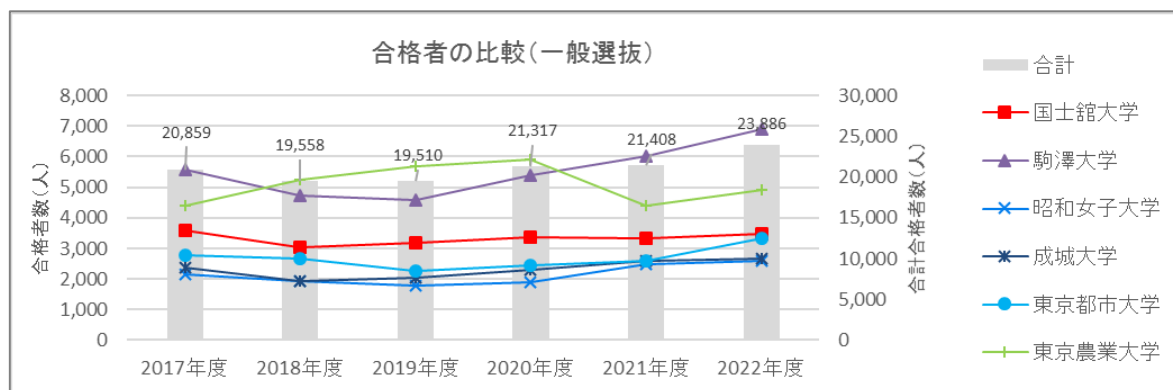
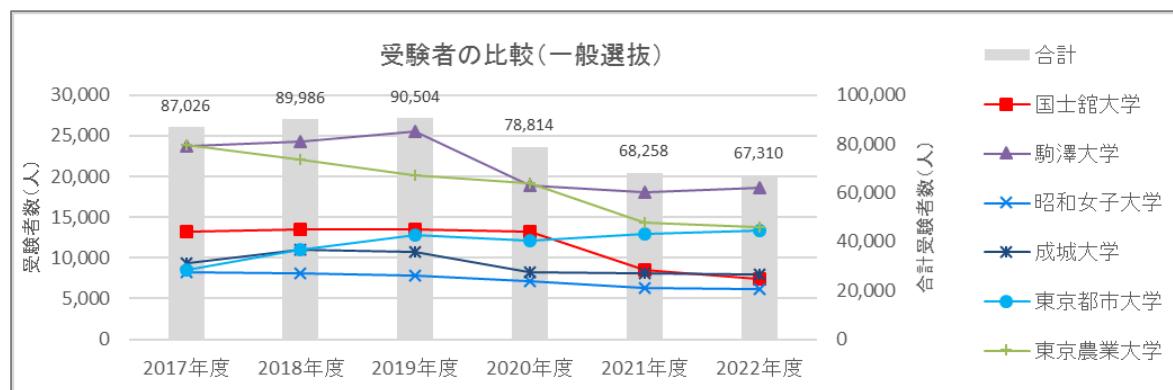
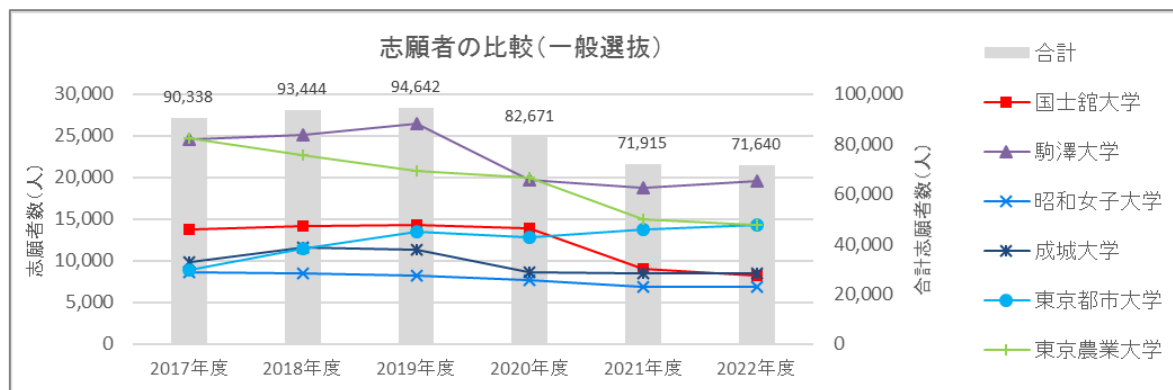
学生数(大学院生)の経年推移



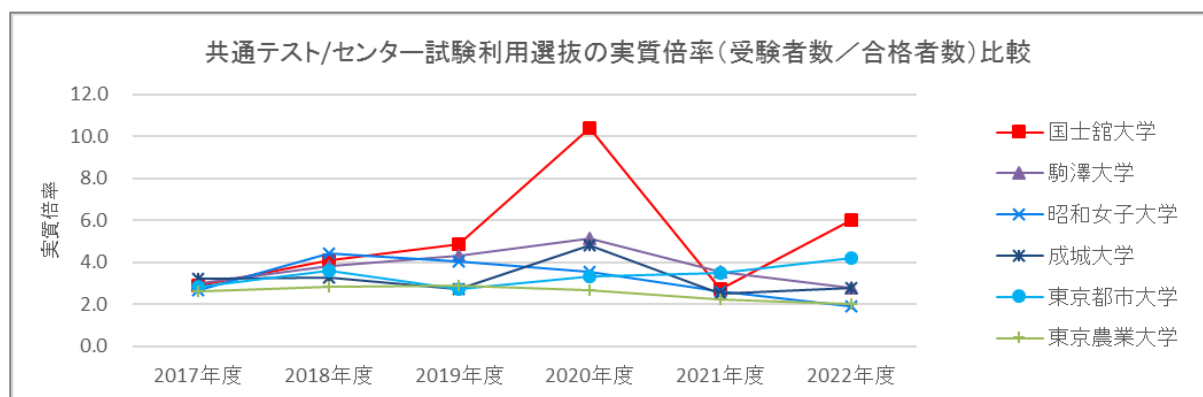
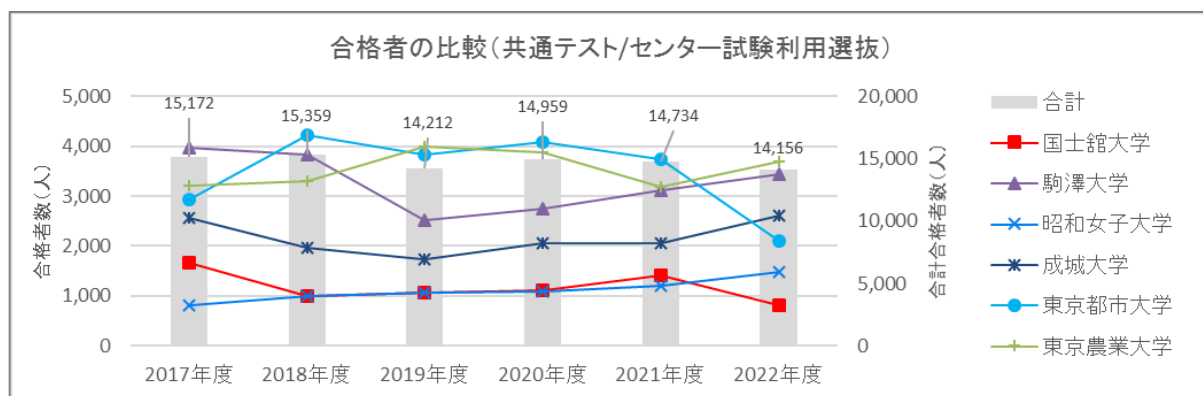
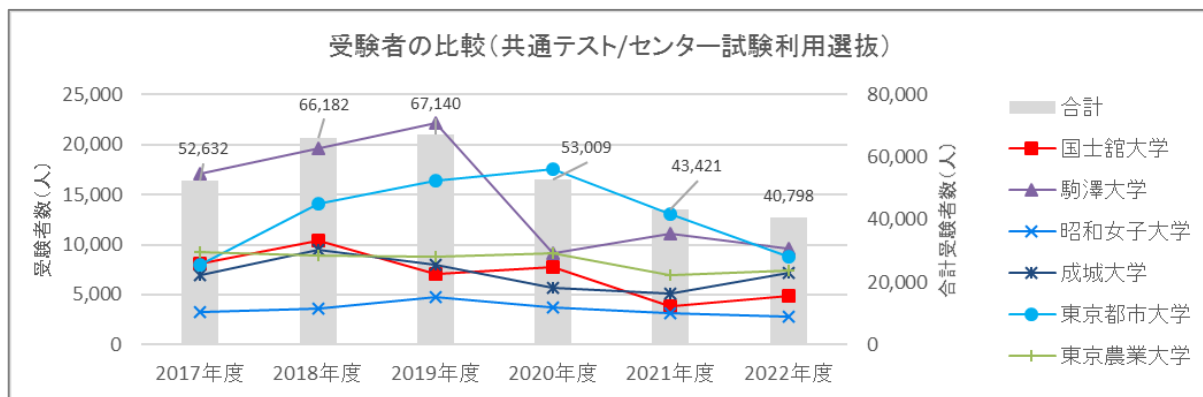
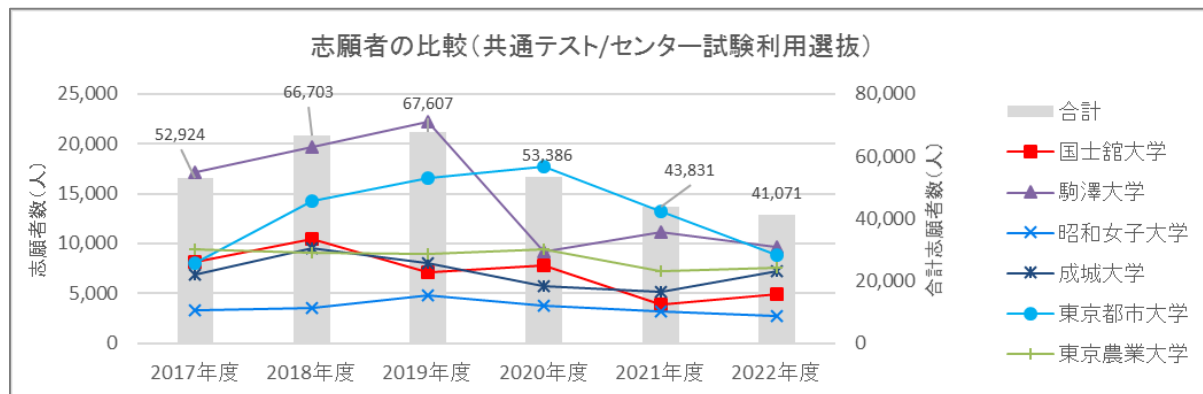
※学生数は、各年度5月1日現在

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
国士舘大学	231	260	256	290	318
駒澤大学	233	253	220	202	204
昭和女子大学	95	83	74	117	134
成城大学	92	78	75	82	73
東京都市大学	601	600	611	739	858
東京農業大学	539	578	587	686	801
6大学計	1,791	1,852	1,823	2,116	2,388

世田谷PF協定大学の一般選抜において、2022年度志願者数合計は約7万2千人、受験者数合計は約6万7千人と、2019年度をピークに減少している。一方で合格者数は約2万3千人と増加傾向にある。志願者数や受験者数の減少については、入学定員の厳格化の影響や新型コロナウイルス感染症の影響などが考えられる。また、合格者数の増加は、昨年度と同様に入学定員充足率を調整するため、追加合格者を出した結果と考えられる。



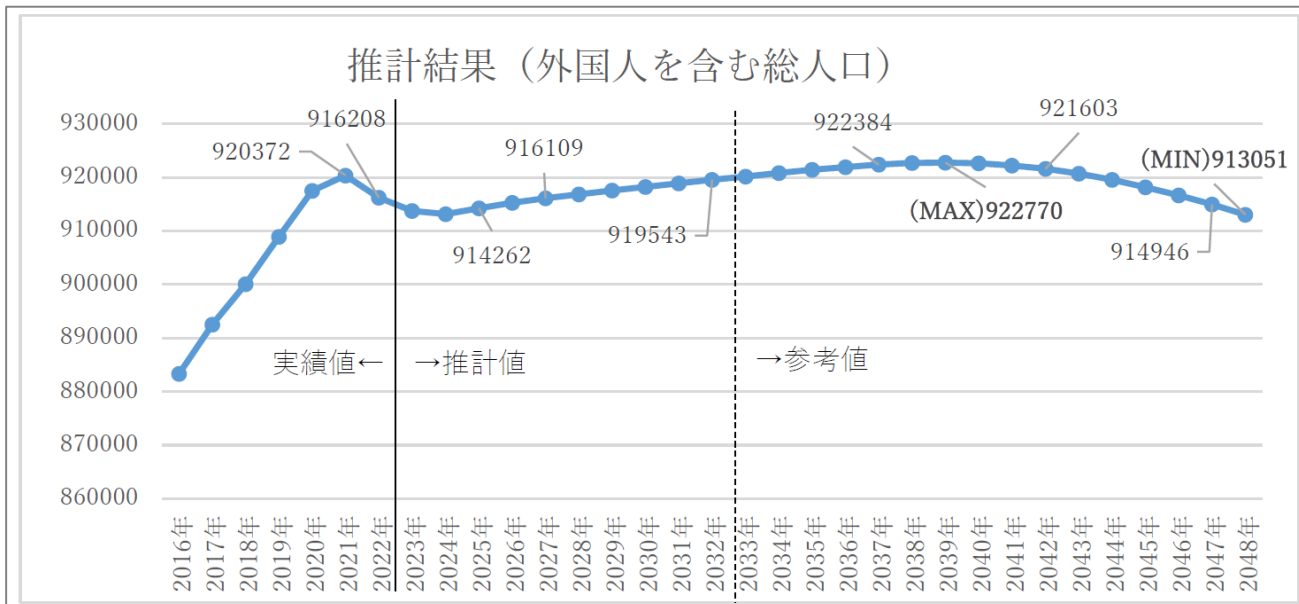
世田谷PF協定大学の共通テスト/センター試験利用選抜において、2022年度志願者数合計及び受験者数合計は約4万1千人であり、2019年度からの減少傾向が続いている。一方で2022年度合格者合計は約1万5千人であり、前年度と比較すると同等である。大学入学共通テストは2021年度から実施されたこともあり、受験者が少なかったこともあるが、一般入学選抜と同様に、入学定員の厳格化の影響などが考えられる。



5 世田谷区将来人口に係る統計①

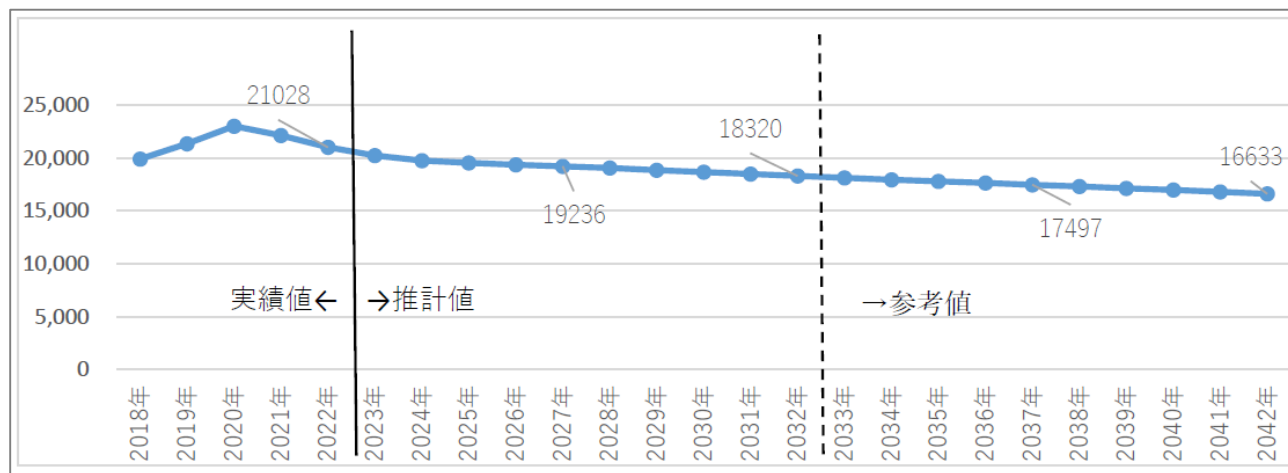
世田谷区は、「世田谷区将来人口推計」のデータを公表している。
以下の内容は、そのデータに基づき作成している。

●世田谷区将来人口推計



出典：世田谷区将来人口推計（令和4年7月）p.20

●外国人人口の推移【参考】



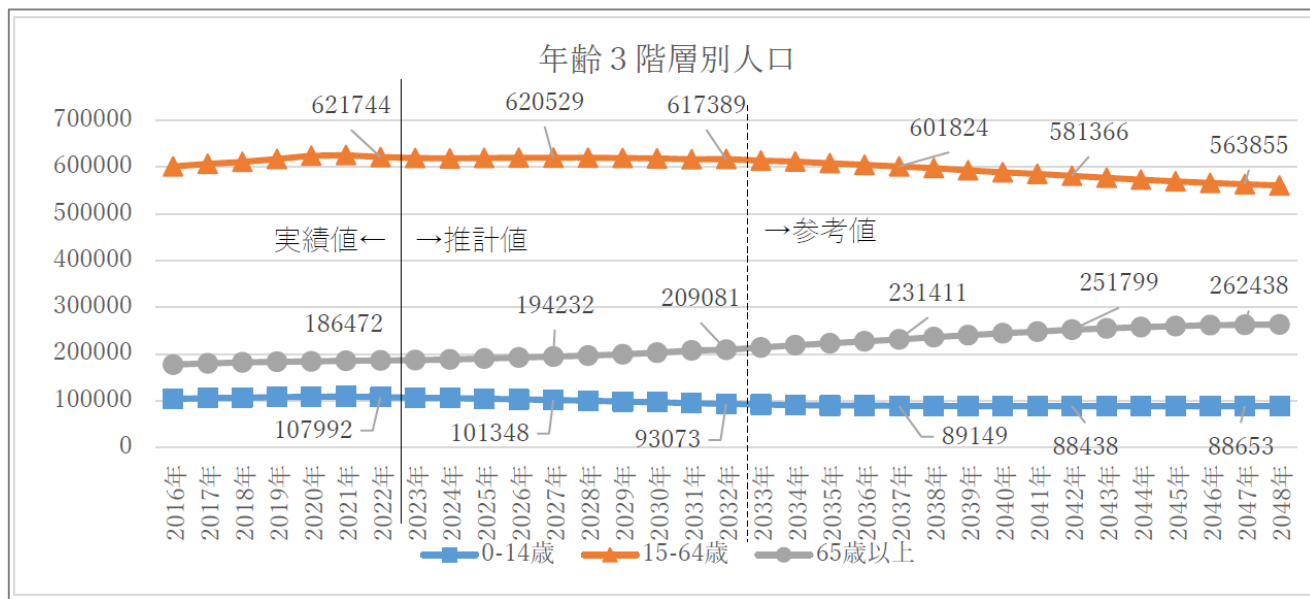
出典：世田谷区将来人口推計（令和4年7月）p.23

1995年以降増加し続けてきた世田谷区の総人口は、2022年に減少に転じた。2022年7月公表の世田谷区将来人口推計では、この現象をコロナ禍に起因するものとみている。なお、2021年には、世田谷区への転出数が転入数を上回る「転出超過」になっている（東京特別区部全体についても、2021年は、転出超過となっている。）。今後の世田谷区総人口については、2024年まで人口減が続くものの、その後人口増に転じ、2039年をピークに減少する推計している。
なお、将来にわたりコロナ禍が続いた場合は、区総人口は2029年に90万人を下回るとの推計もある（世田谷区将来人口推計低位推計）。

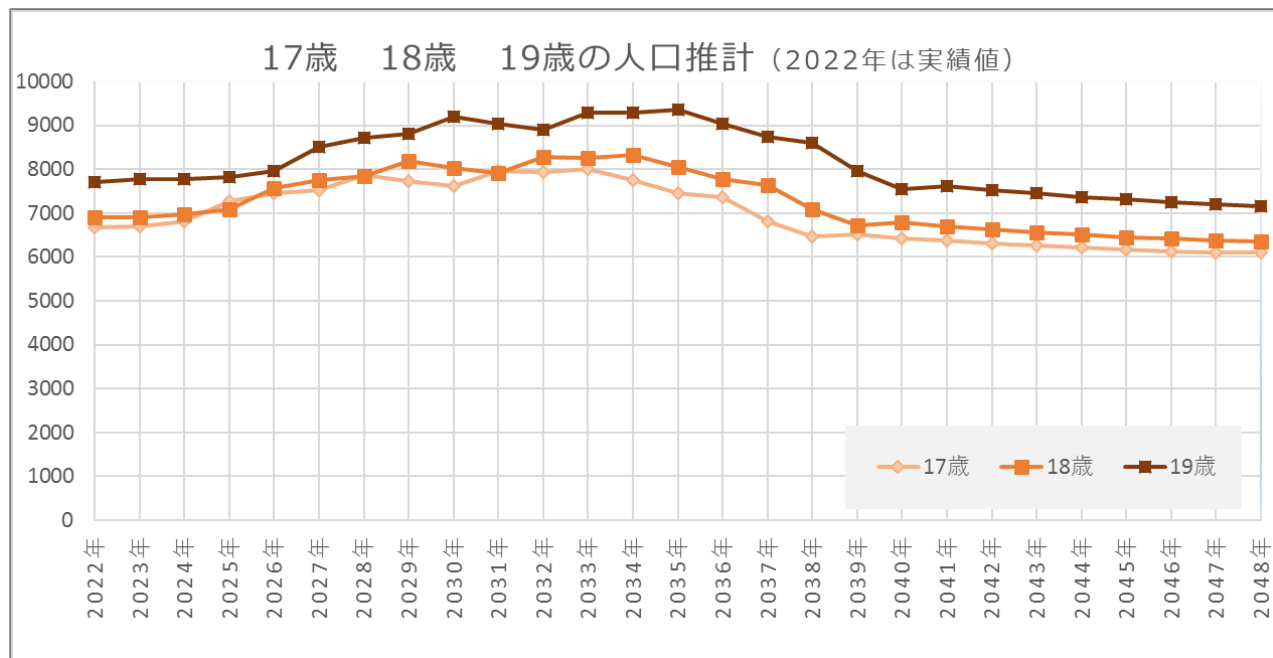
外国人人口の推移について、コロナ禍による減少が続いていたが、2022年4月以降外国人の転入が増えているという。

6 世田谷区将来人口に係る統計②

●年齢3階層別人口



出典：世田谷区将来人口推計（令和4年7月）p.19



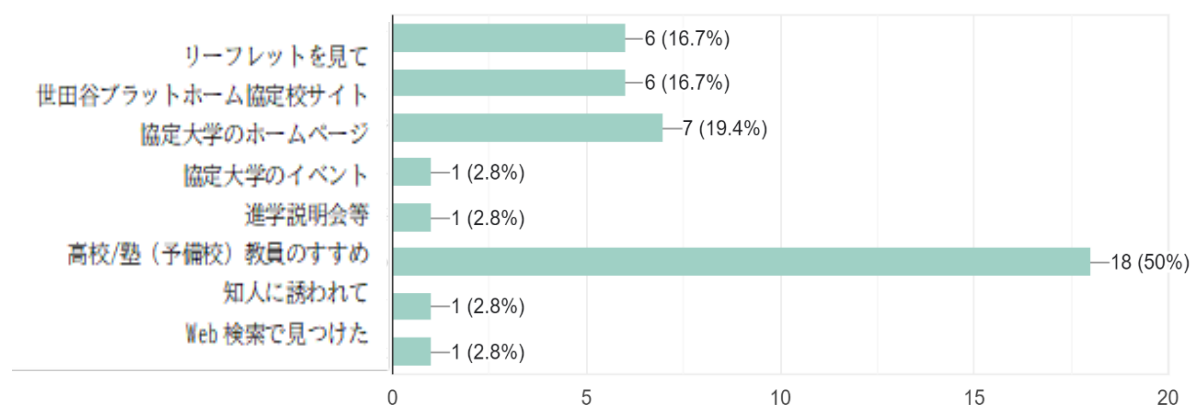
「世田谷区将来人口推計（令和4年7月）推計結果データ」をもとに作成

15－64歳人口（生産年齢人口）にあつては、減少傾向、65歳人口（高齢者人口）にあつては、増加が続くと推計されている。

年齢別に細かく見ると、17歳、18歳、19歳いずれも、当面やや増加傾向となるものの、2030年台をピークに減少傾向になるとみられている（18歳については、2034年の8,321人がピークに減少すると推計）。

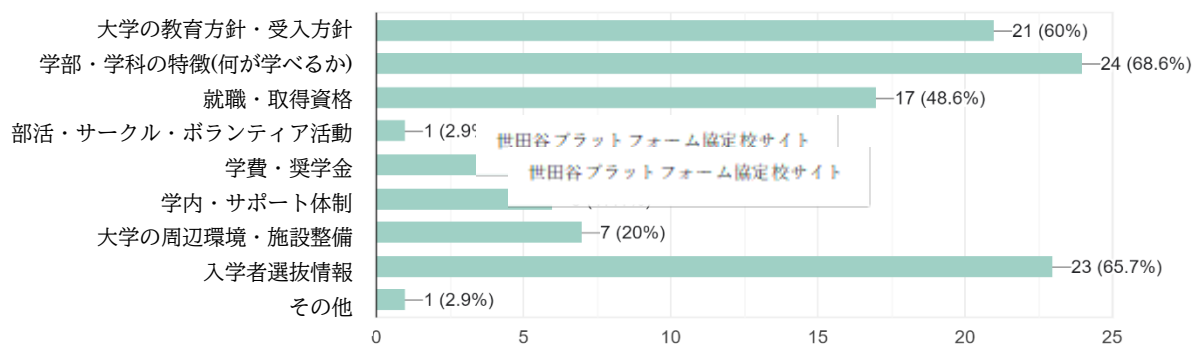
説明会に参加したきっかけは何ですか（複数回答可）

36 件の回答



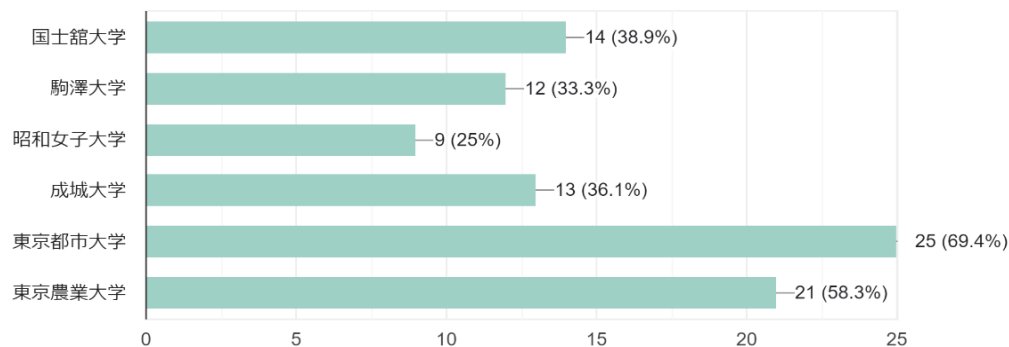
説明会で知りたかった内容は何ですか（複数回答可）

35 件の回答

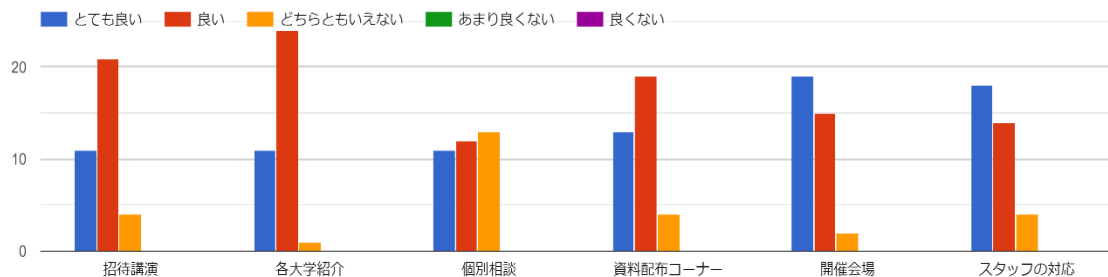


どちらの大学の説明を聞きにきましたか。（複数回答可）

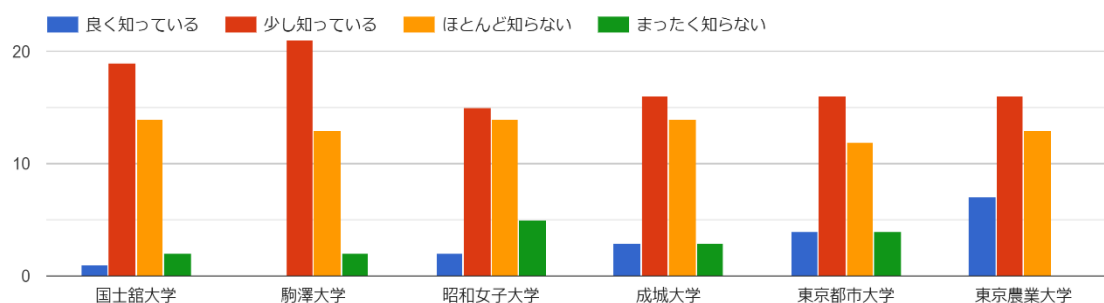
36 件の回答



本日の説明は、いかがでしたか

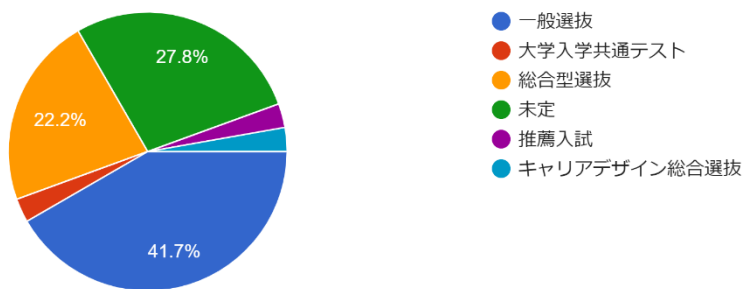


協定大学について、どの程度ご存知ですか



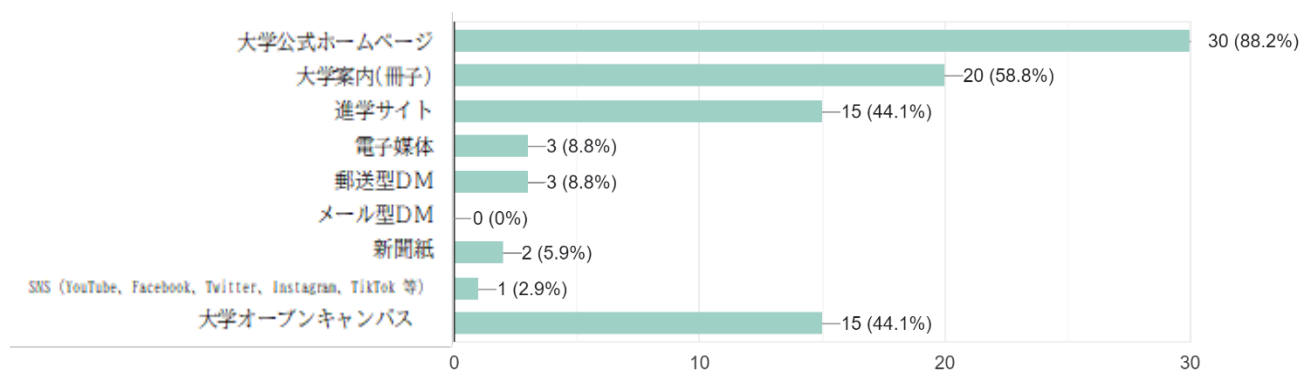
現在、お子様が検討している選抜方式を教えてください。

36 件の回答



進路選択の際、参考になっている広報媒体は何ですか。（複数回答可）

34 件の回答



コロナ禍でオンライン開催（2020年度）、オンデマンド配信（2021年度）が続き、2022年度は数年ぶりの対面開催となったが、インターネット予約が瞬時に埋まり、高校生保護者の大学進学に対する情報量の不足と進路選択への関心の高さが伺えた。各大学による講演形式の大学紹介のほか、（株）マイナビによる大学受験のトレンドに関する招待講演を行ったが、参加者はみな真剣にメモを取っていた。高校3年生の保護者が最も多かった（55.6%）が、残り半数を高校1～2年生の保護者が占めており、進路選びの早期化が強く感じられた。